

高等学校

平成 11 年 度

教育研究員研究報告書

保健体育

東京都教育委員会

平成 11 年度

教育研究員名簿

	氏 名	学 校 名
体 育	高 山 和 徳	都 立 赤 坂 高 等 学 校
	清 水 智 之	都 立 北 豊 島 工 業 高 等 学 校
	◎庄 司 一 也	都 立 青 井 高 等 学 校
	白 井 克 昌	都 立 墨 田 川 高 等 学 校 堤 校 舎
	高 山 幹 人	都 立 葛 西 工 業 高 等 学 校
	中 村 圭 男	都 立 野 津 田 高 等 学 校
保 健	土 崎 祐 一 郎	都 立 蒲 田 高 等 学 校
	尾 崎 武 彦	都 立 向 丘 高 等 学 校
	磯 邊 隆 之	都 立 飛 鳥 高 等 学 校
	黒 崎 正 喜	都 立 荒 川 工 業 高 等 学 校
	○慶 徳 仁 史	都 立 武 蔵 村 山 東 高 等 学 校
	関 美 智 恵	都 立 府 中 西 高 等 学 校

◎ 全体世話人 ○ 副世話人

担 当 体育部体育健康指導課 指導主事 山崎 正己
指導主事 薄井 和久

目 次

研究主題 「自ら課題を発見し、課題解決ができる生徒を育成する学習指導の工夫」
～選択制授業における課題把握の工夫、保健の学習過程の工夫を通して～

I	研究主題と研究の方針	2
1	主題設定の理由	2
2	研究の方針	2
3	研究の経過	2
4	研究の構想図	3
II	研究の内容	4
	[体育]	
1	選択制授業に関する意識・実態調査	4
2	調査結果のまとめと仮説の設定	7
3	研究の視点	8
4	選択制授業の単元指導計画例	10
5	選択制授業の指導事例（実証授業）	11
6	実証授業の結果と考察	12
7	研究の成果と今後の課題	14
	[保健]	
1	保健の課題学習に関する意識・実態調査	15
2	調査結果のまとめと仮説の設定	17
3	研究の視点	18
4	課題学習を取り入れた単元指導計画	20
5	課題学習の指導事例（実証授業）	22
6	実証授業の結果と考察	23
7	研究の成果と今後の課題	24

「自ら課題を発見し、課題解決ができる生徒を育成する学習指導の工夫」

— 選択制授業における課題把握の工夫、保健の学習過程の工夫を通して —

I 研究主題と研究の方針

1 主題設定の理由

平成11年3月に告示された新しい学習指導要領は、平成12年度から移行措置期間に入るが、「保健体育」においては、この移行措置期間から一部または全部の実施が可能になった。

新学習指導要領の保健体育科の目標として、心と体を一体としてとらえ、「生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力の育成」「健康の保持増進のための実践力の育成」及び「体力の向上」の3つが密接に関連していることが示された。また、「運動の課題をもち、自ら考えたり活動を工夫したりして、その課題を解決することを通して運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうこと」「自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力の育成」が重視された。

このように、これからの保健体育科に求められていることは、様々な運動やスポーツの合理的な実践を通して、生徒が自己の能力に応じた課題を設定し解決することなどにより、運動の楽しさや喜びを味わうとともに、体力の向上を図ったり、生涯を通じて健康を適切に管理し改善していく資質や能力を育成していくことである。これは豊かにたくましく生きるための実践力の育成を目指すものであると言える。

そこで、自ら課題を発見し解決する能力を身に付けさせるために、学習過程をどのように工夫するかに研究のポイントを絞り、研究主題「自ら課題を発見し、課題解決ができる生徒を育成する学習指導の工夫」を設定した。

2 研究の方針

はじめに、「課題把握とは何か。」「課題をもたせるために教師はどのような支援をしたらよいか。」をテーマとし、生徒各自に課題を把握させるための方法を検討した。そして、生徒が「自らやりたい。」と思う授業を目指し、体育班では「選択制授業における課題把握の工夫」を、保健班では、「学習過程の工夫」を研究の柱とし進めることにした。

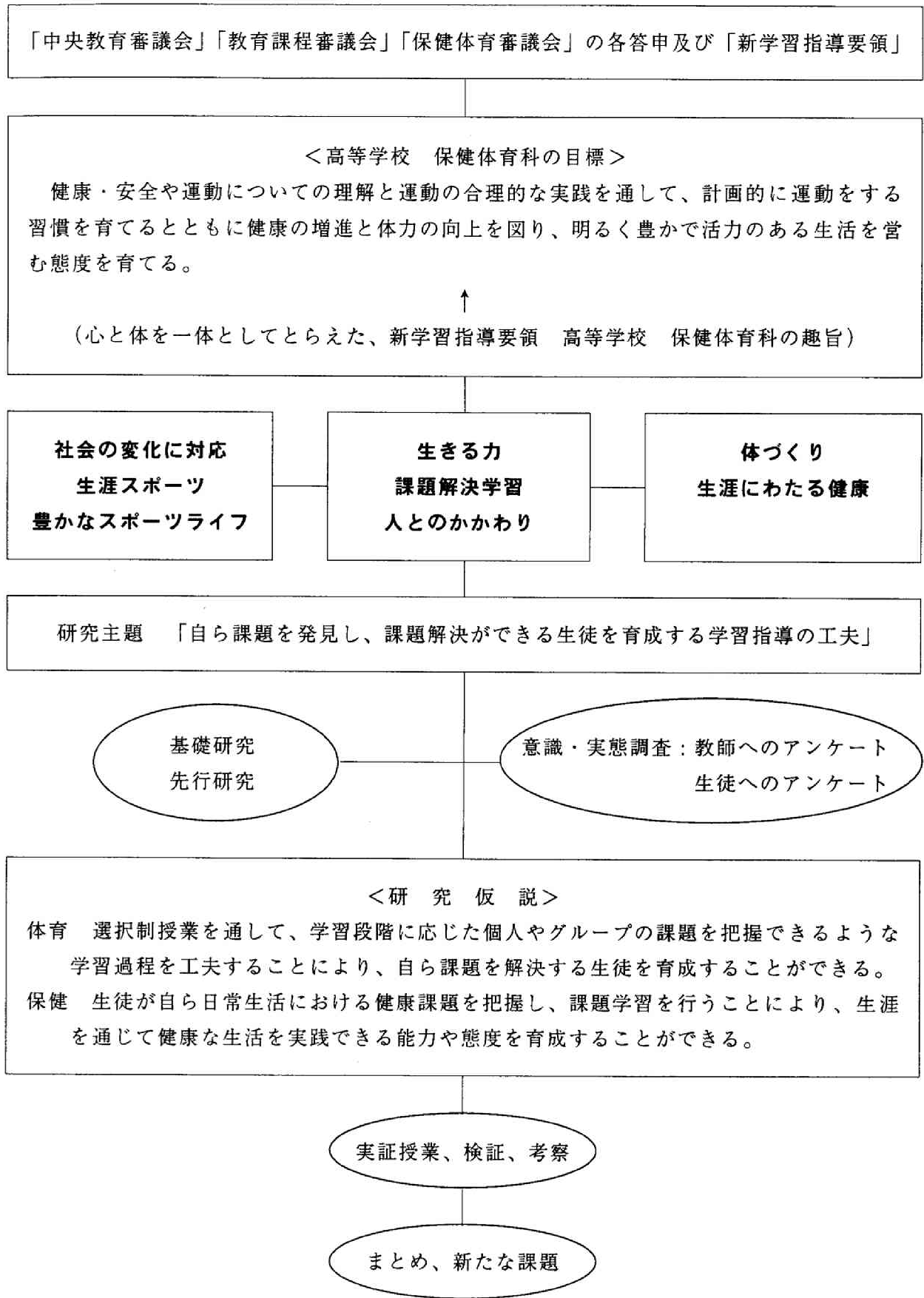
体育班 「生徒自ら課題を発見し、課題解決できる学習計画の作成」を工夫する。今までの学習を基礎にして今ある力を確認し、さらに向上するための課題の設定や課題解決ができる学習過程を、選択制授業を通して研究を進める。

保健班 課題学習を通して、自己の健康に関心をもつとともに、思考力、判断力を育み、生涯を通して健康な生活を実践できる能力の育成を目指す。課題学習における単元の再構成や、課題把握、課題解決などの学習過程、特に体験的学習について工夫する。

3 研究の経過

- | | |
|-------------|-------------------|
| (1) 主題設定 | 研究計画・研究の構想図作成 |
| (2) 意識・実態調査 | アンケートの集計・分析・考察 |
| (3) 仮説設定 | 指導計画の検討・実施 |
| (4) 実証授業 | 結果の分析・考察 |
| (5) まとめ | 報告書の作成・研究発表・評価・課題 |

4 研究の構想図



Ⅱ 研究の内容

[体育]

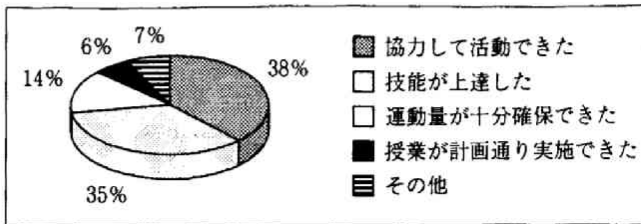
1 選択制授業に関する意識・実態調査

- ・ 調査期間 平成11年 6月～7月
- ・ 調査対象 都立高等学校（選択制授業受講中の生徒） 男子244名 女子260名 計504名
都立高等学校保健体育科教諭（選択制授業実施校教諭） 105名
- ・ 調査内容 生徒：選択制授業での喜び、実施上の問題点、充実度、今後の課題
教師：課題把握の方法・問題点、指導・助言方法

(1) 調査結果と考察

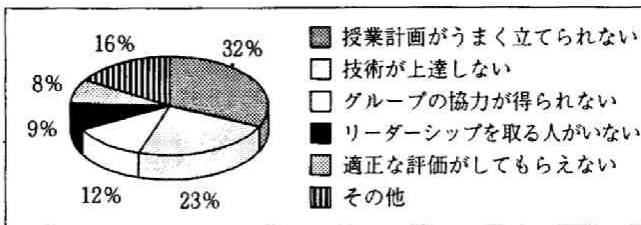
<生徒の意識・実態調査>

ア 選択制授業において、楽しさや喜びを感じるのはどんなときか。



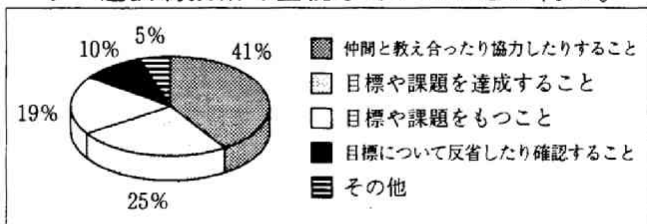
- (ア) 選択制授業において、仲間と協力して活動ができたとき、技能が向上したときに喜びや楽しさを感じている生徒が73%いる。
- (イ) その他の回答で、楽しさや喜びを感じないと答えた生徒も少数存在する。

イ 選択制授業を行う上で、困っていることは何か。



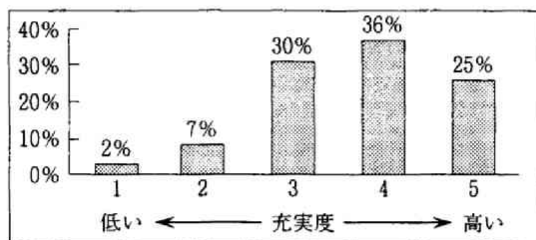
- (ア) 授業計画が思うように立案できないことや、技術が向上しないことなどに困っている生徒が55%いる。
- (イ) リーダーシップを発揮してくれる人が少ないことに困っている生徒が9%いる。
- (ウ) その他の多くは困っていないと回答している。

ウ 選択制授業で重視していることは何か。



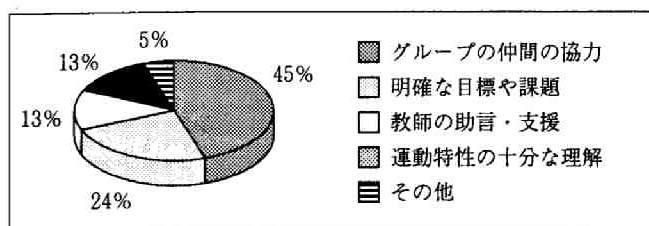
- (ア) 目標や課題をもちその達成を目指している生徒が多く、個人の課題把握に課題解決を選択制授業で重視している。
- (イ) 選択制授業で、仲間との学び合いや協力、技術向上を重視し、活動している生徒が41%いる。

エ 選択制授業の充実度を5段階で表すとどうなるか。



- (ア) 選択制授業の充実度を4及び5とした生徒が61%あり、体育の選択制授業で充実感を味わっている。
- (イ) 選択制授業の充実度を1および2と低く評価している生徒は9%である。

オ 選択制授業を現在よりも充実したものとするために必要なものは何か。



(ア) 選択制授業の充実に必要不可欠なものとして、グループの仲間との協力を挙げる生徒が45%いる。

(イ) 明確な課題や目標をもつことが、選択制授業をより一層充実したものとなると考えている。

〈生徒の調査結果から〉

ア 選択制授業において、仲間と協力して活動できたとき、運動技能が向上したときに、楽しさや喜びを感じている傾向がある。

イ 学習計画がうまく立てられない、技術の向上が見られないことを問題点としている生徒が多い。

ウ 選択制授業において、課題をもつことや、それを解決していくことの重要性を理解していることがうかがえる。

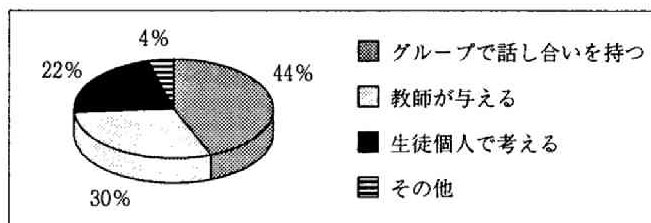
エ 仲間と協力し、明確な課題や目標をもつことが、より充実した選択制授業のために必要だと感じている生徒が多い。

生徒の意識・実態調査から明らかになったこと

選択制授業において仲間との協力を重視し、個人やグループの課題を発見・解決しようとして活動していることがわかる。同時に今より充実した選択制授業を実施していくためには、仲間との一層の協力と明確な目標・課題をもつ必要があると考えている。しかし、学習方法や課題の解決方法を見付けることに苦勞しており、授業計画が適切に立てられていない様子が見られる。

〈教師の課題把握に対する意識・実態調査〉

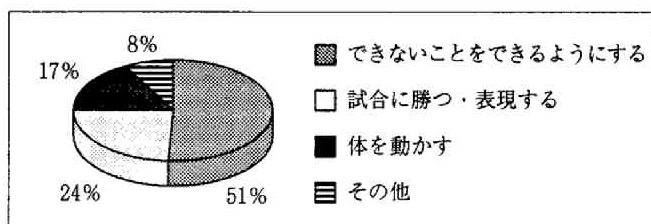
ア 選択制授業において生徒に課題をもたせる方法は何ですか。



(ア) グループの話し合いや個人で考えるなど66%の教師が生徒の主体的な課題把握を重視している。

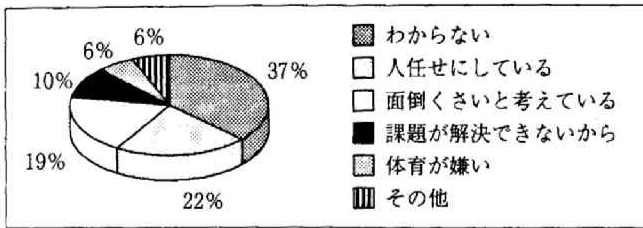
(イ) 教師が生徒に対して課題を与えている傾向が30%見られる。

イ 選択制授業で生徒がもつ課題とは、どのようなものだと考えますか。



(ア) 75%の教師が、生徒のもつことができる課題とはできないことをできるようにすることや・試合に勝つこと、表現すること、であると考えている。

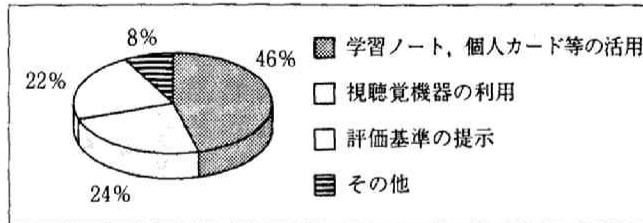
ウ 生徒が課題をもつ上での障害は何だと考えますか。



(ア) わからないが37%あり、何故課題をもつことができないのか悩んでいる。

(イ) 生徒が課題を把握できない理由を、人任せや面倒くさいと考えている教師が41%いる。

エ 課題を明確にもつための具体的な支援方法は何ですか。



(ア) 支援の方法としては学習ノートや個人カード等の活用が46%である。

(イ) 視聴覚機器の有効な利用で、課題の把握を支援しようとしている。

オ 課題把握の支援となるような方法や言葉かけは

様々な実践が報告されたが以下にその大まかな傾向を示す。

- ・授業の中で生徒の良い点を見付けて褒める。 ・各運動の経験者を生かす。
- ・アドバイスを充実する。 ・学習計画を実施していく中でチェックする。
- ・生徒との話し合いを充実する。 ・生徒同士の教え合いを充実する。
- ・オリエンテーションを充実する。

〈教師の調査結果から〉

ア 各グループの話し合いや、個人で考えさせることにより、課題を把握させようとしている様子がうかがえる。

イ 生徒のもつ課題とは、できないことをできるようにする、試合に勝つ、表現すると考えている傾向がある。

ウ 生徒には課題を把握することができないとして、教師が課題を与えていることも少なくない。

エ 課題把握のための支援方法として、学習ノート、個人カード等の活用を考えている傾向がある。

オ どのようにすれば生徒が課題を把握できるようになるのか、支援の方法で悩んでいる。

教師の意識・実態調査から明らかになったこと

教師は、課題をもたせる方法として個人の考えやグループの話し合いなど、生徒の自主性を重視している。その支援方法として学習資料の活用・視聴覚機器の利用などが挙げられている。しかし、生徒が課題を把握することができない理由が明確にならないため、どのような支援の方法が効果的なのか悩んでいる様子がわかる。

2 調査結果のまとめと仮説の設定

意識・実態調査から、生徒は選択制授業をより充実したものにするには、仲間との協力や、課題の把握と解決が重要であると考えている。しかし、具体的な課題の把握と解決の方法が分からないため、授業計画が立てられないなどの悩みにぶつかっていることがわかった。

一方、教師も生徒が各自の課題をもって授業に臨むことの必要性を認めている。課題を把握させる方法や課題の具体的内容、解決方法は、生徒自身で考えたり、グループでの話し合いのなかで見付けることを望み、その支援としては学習ノートや個人カードを活用している。しかし、生徒はなかなか課題把握にいたらず、教師は課題把握のための支援方法について悩んでいることがわかった。

そこで、仲間とより深い人間関係を結び、自ら課題を発見、解決していけるようにするための支援の方法として、学習過程の工夫を考えた。

選択制授業において、オリエンテーションの重要性は先行研究でも明らかである。そこで、それを発展させ、自分の課題や仲間の課題を確認する場を設定するとともに、それぞれの場面での個人やグループの課題を学習活動とのかかわりで示すことが、課題把握を容易にさせるとともに、学習の成果や反省を踏まえてフィードバックさせ、さらに充実した学習計画を立てるなど、生き生きとした学習活動の展開につながるのではないかと考えた。

このような考えから、選択した運動種目の特性を追求する段階の観点をさらに明確に示し、課題の確認を行う場を設定することとした。本研究では、この場を「ステップアップミーティング」と呼ぶことにした。

以上のことから次のような仮説を設定した。

《仮説》

選択制授業を通して、学習段階に応じた個人やグループの課題が把握できるような学習過程を工夫することにより、自ら課題を解決する生徒を育成することができる。

3 研究の視点

仮説の検証を行うにあたり、意識・実態調査から明らかになった内容を踏まえて、生徒が自ら課題を把握し、解決できる能力を育成するためには、「学習過程をどのように工夫していくのか」に視点を当てて研究を進めることにした。

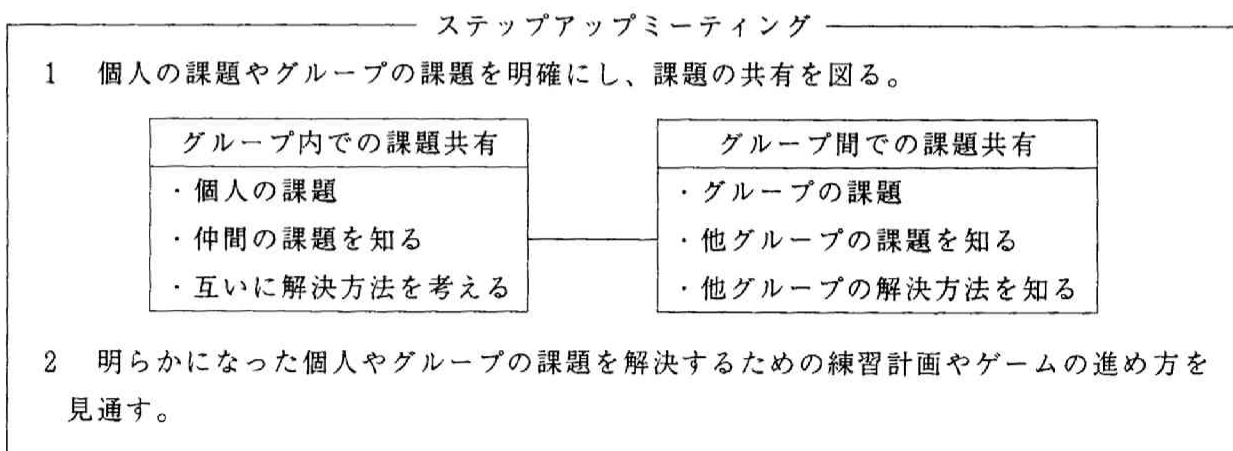
(1) 学習のねらいの整理

単元を通して適切に課題を把握し、選択した運動種目を追求する段階の2つのねらいを達成させるため、学習過程を下記の観点からさらに整理した。

学習過程におけるねらいの観点				
学習1	学習環境を知り、可能な運動種目を選択し、グループで学習計画を立てる。			
学 習	ね ら い 1	自分たちの力にあった運動の行い方を決め、運動の特性に触れるための練習やゲームを行い、その方法や仕方を学びながら工夫する。	観点1	今ある力で運動を楽しむ。
			観点2	お互いの力やグループの特性を理解し、練習やゲームを行い運動の特性に触れる。
2	ね ら い 2	高まった力にふさわしい運動の行い方を決め、ゲームを行ったり、大会、発表を行ったりする。	観点3	さらに向上するための練習を計画・実施したり、ゲームを行ったりしながら、より深く運動の特性に触れる。
			観点4	個人やグループの特徴を生かし大会や発表会を行なう。

(2) 課題把握のための場の設定

生徒が個人やグループとしての課題を明確に把握し、学習内容や方法を決め学習計画へフィードバックしていくことができるように、毎時間行うグループミーティングの他に、ステップアップミーティングを設けた。



課題を共有し、相互に学びあう中で、個人やグループの課題解決に向けて主体的に取り組むことができる。

(3) 個人やグループの課題把握の明確化を図る工夫

学習過程のそれぞれの場面で、個人やグループの課題把握が円滑に行われるように、それぞれの場面での課題を具体的な学習活動とのかかわりで以下のように示した。

		オリエンテーション	ステップアップミーティング1	ステップアップミーティング2	ステップアップミーティング3
学習の流れ		つかむ	→ 確かめる	→ 味わう	→ まとめる
個人の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・選択制授業の趣旨を理解する ・学習方法を理解する ・これまでの運動経験を把握する ・運動種目を選択する ・今ある力で楽しく運動を実施する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の能力を知る ・自分の目標を設定し、具体的な学習方法を知る ・仲間の課題を知る ・互いに学び合う ・グループにおける自分の役割を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の資質・能力を把握し、グループの中で生かす ・合理的な学習内容・方法を理解し、グループの中で自分の考えを反映させる ・相手の立場や特性を理解し、協調性ある活動を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームにおいて自分の能力を発揮し、グループの中で生かす ・ルールや審判法について理解する ・勝敗に対して公正な態度をとる 	
グループの課題	<ul style="list-style-type: none"> ・適切なグループを形成する ・相互の運動経験を把握する ・学習計画を立て実施する ・仲間と楽しさを共有する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループに応じた学習計画を立てる ・グループにおける各自の役割を明確にする ・個人とグループの課題を適切に把握する ・相互に課題を把握する 	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの特徴や課題を把握し、課題解決に向けた学習計画を立てる ・仲間の資質や能力を理解し、互いに協力して行う ・他のグループの特徴を把握し、作戦や戦術を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦や戦術を生かした攻防を展開してゲームを行う ・自分たちのグループのゲーム分析を行う ・仲間と協力して競技会や試合を企画する 	
具体的学習活動	<ul style="list-style-type: none"> ・新体力テスト等を活用し、各自の体力・運動能力を把握する ・お互いの運動経験の違いを確認する ・学習の流れのパターンを理解し、学習方法を明確にする ・簡易ゲームや試しのゲームの実施方法を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で、個人の能力の「良い点」を指摘し合い、グループでの生かし方を考える ・相互に自分の課題やグループとしての課題を発表する ・学習内容・方法について再検討する 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの中で個人が生かされているか考える ・グループの力と、学習内容が適切か考える ・種目の特性に応じたグループとしての課題を発表する ・グループとしての作戦や戦術を検討する ・一人一人が作戦や戦術を理解すると共に、個々の能力を生かした活動を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人やグループの特徴を生かしてゲームの在り方を考える ・ゲームの分析を通して、個人やグループの課題が解決されているか検討する ・作戦や戦術について再検討する ・競技会や試合を企画する 	
評価	意欲 思考・判断 技能 知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・運動やスポーツへの興味・関心 ・選択制授業の経験 ・技能の程度を把握 ・「体育に関する知識」の理解度 	<ul style="list-style-type: none"> ・選択種目への興味・関心 ・仲間との課題の共有 ・個人的な技能の習熟度 ・選択した種目の理解の程度 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容、学習方法への興味・関心 ・個人やグループの課題の認識 ・集団的な技能の習熟度 ・作戦や戦術についての理解 	<ul style="list-style-type: none"> ・種目の特性に応じた運動への興味・関心 ・課題の理解と解決 ・個人的技能や集団的技能のゲームでの活用 ・ルールや審判法・試合運営についての理解
学習活動への支援		学習ノート、個人カード、ビデオ等視聴覚機器、各種の教材キット、教師の言葉かけ			

4 選択制授業の単元指導計画例

(1) 単元計画例（授業時数16時間 対象 第1学年・男女共習）

時間	ねらいの観点	学習内容・方法		
1	選択制授業の理解	オリエンテーション		
2	観点1 今ある力で運動を楽しむ	つかむ 学習方法の理解 スキルチェック 基礎練習・簡易ゲーム		
3		観点2 お互いの力やグループの特性を理解し、練習やゲームを行い運動の特性に触れる	グループ ミニ ティ ング 確かめる 個人やグループの課題を考慮した練習やゲーム	
4			観点3 さらに向上するための練習を計画実施したりゲームを行ったしながら、より深く運動の特性に触れる	ミニ ティ ング ステップアップミーティング2 味わう 高まった力を生かした、練習やゲーム
5	観点4 個人やグループの特徴を生かした大会や発表会を行う			ティ ング ステップアップミーティング3 まとめる 大会の企画・運営・管理・実施
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				

- ア 課題については、生徒の把握する課題を、個人の課題とグループの課題で考えた。
- イ 生徒の把握する課題の方向性を、現在の自分の力を知る→個人の課題把握→個人の課題を考慮したグループの課題把握→他のグループの課題と自分のグループの課題の比較へと発展的に広がりが出てくるようにした。
- ウ オリエンテーションにおいては、中学校での選択制授業の経験の有無と、今までの自分の運動経験から、各種目のもつ運動特性について確認し、種目選定を行うことにした。
また、現在の自分の運動技能と体力を知るために、スキルチェックや新体力テストを活用することとした。
- エ ステップアップミーティング1を単元の初めの部分に設け、個人やグループの課題を明確にするとともに、課題解決の方法を中心について確認し合い、課題を共有することで学習計画の見直しを行いやすいようにした。
- オ ステップアップミーティング2を単元の中程に設け、個人やグループの課題解決の状況を確認するとともに、グループとしての特徴を出した練習やゲームが行われやすいようにした。
- カ ステップアップミーティング3を単元の後半に設け、選択した種目ごとに、各々の能力やそれぞれのグループの特徴を考慮した試合内容や、企画・運営ができるようにした。
- キ 毎時間グループミーティングを実施し課題の明確化を図った。

5 選択制授業の指導事例（実証授業）

(1) 単元名：選択制授業（男女共習、球技領域の中から生徒の希望種目を設定）

(2) 時間：16時間中5時間目

(3) 学年：第1学年 1・2組 男子31名 女子42名 計73名

(4) 本時のねらい

ア：自分の課題や仲間の課題、また、グループとしての課題を把握する。

イ：立案した学習計画の内容や方法が、課題解決やねらいの達成にそっているか検討する。

ウ：自分たちで計画した学習内容にのって、意欲をもって各種の運動種目を実施する。

エ：学習活動終了後、自己評価や相互評価を行い、次時の学習へフィードバックする。

(5) 展開（ステップアップミーティングは、15分程度実施する。）

	学習内容・活動	教師のかかわり	評価
導入	<ul style="list-style-type: none"> ☆事前準備 ☆学習計画の確認 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に発表用シートに沿って、グループミーティングを実施するように促す。 ・ステップアップミーティング1の趣旨や進行方法についての理解を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表用シートの記入が行われているか。
展開1	<ul style="list-style-type: none"> ☆ステップアップミーティング1 ・各グループの発表 ・学習計画について 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互に話し合う中で、個人やグループの課題を把握しているか確認するように促す。 ・立案した学習計画が、課題解決や目標の達成につながるように促す。 ・学習計画の良い具体例を提示し、参考にするよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人やグループの課題が具体的になったか。 ・個人・グループにあった目標や活動計画を立てているか。
展開2	<ul style="list-style-type: none"> ☆グループ活動 ・各種目に分かれて活動を実施 =種目= ソフトボール・卓球・テニス・バドミントン・バレーボール・ミニサッカー 	<ul style="list-style-type: none"> ・今ある力で各種の運動を楽しむとともに、把握した課題の解決に向けた練習の在り方を考え、学習活動へ反映させるように促す。 ・互いに学び合いながら、最善を尽くして活動するように促す。 ・教材キットをすぐに取り出せるような場所へ配置し、活用を促す。 ・活動の状況を把握するために細かく観察し、学習ノートを通して課題解決の方法に気付かせるようにする。 ・仲間と協力し、個人の課題やグループの課題を考えた学習活動になるように促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自主的・主体的に活動しているか。 ・仲間と学び合い、協力して活動しているか。 ・安全に留意して活動しているか。 ・学習ノートや教材キットを有効に活用しているか。 ・課題に即した活動となっているか。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ☆活動の評価 ・個人グループの評価 ・学習ノートの記入 ・新たな課題・目標の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・ステップアップミーティング1の内容を踏まえ、課題解決のための活動が実践されたか評価するよう促す。 ・評価をもとに、新たな課題を立てたり、ねらいを明確にしたりして、学習計画へフィードバックさせるよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習ノートの記入が行われているか。 ・課題解決への道筋が理解されているか。

6 実証授業の結果と考察

仮説を実証するため、実証授業後に生徒を対象にした「選択制授業についてのアンケート調査」を実施した。その調査結果と考察は、以下の通りである。

(1) 選択制授業について

(対象：都立高等学校 第1学年 男子31名 女子42名 計73名)以下、有効回答のみの数字である。

ア オリエンテーションで、小・中学校の時のスポーツ経験(授業・部活動など)を話し合いましたが、自分で選択種目を決定する上で参考にしましたか。

「参考にした」…………… 39名(64%)

「参考にしなかった」…………… 22名(36%)

以上の結果から、小・中学校での授業や部活動での経験が種目選択に参考になっていると考えられる。しかし、36%の生徒が参考にしなかったと答えており、さらに具体的な支援の工夫などが必要なものと考えられる。

イ 選択制授業について、どのような感想をもっていますか。

「楽しい」…………… 46名(69%)

「普通」…………… 19名(29%)

「楽しくない」…………… 1名(2%)

以上の結果から、「楽しい」と感じている生徒が70%みられ、選択制授業がほとんどの生徒にとって楽しく意欲をもって授業に取り組んでいるものと考えられる。

ウ 自分の力にあった課題をもつことができますか。

「はい」…………… 59名(91%)

「いいえ」…………… 6名(9%)

以上の結果から、90%以上の生徒が現在の課題を把握していると考えられる。

ただ「いいえ」と答えた生徒も9%おり、さらに課題把握のための工夫を図ることが必要なものと考えられる。

エ 皆と協力して活動していますか。

「はい」…………… 63名(97%)

「いいえ」…………… 2名(3%)

以上の結果から、仲間同士の協力や学び合いができていると考えられる。

(2) ステップアップミーティングについて

ア ステップアップミーティングにおいて、各自の課題について話しましたが、その結果自分の課題をしっかりとつことができましたか。

「はい」…………… 58名(89%)

「いいえ」…………… 7名(11%)

以上の結果から、ステップアップミーティングを実施することが、課題把握のために効果的であったものと考えられる。しかし、11%の生徒が「いいえ」と答えており、一層内容を工夫していくことが、必要なものと考えられる。

イ ステップアップミーティングによって、明らかになった課題の解決のための練習方法などを見付けることができましたか。

「はい」…………… 49名 (80%)

「いいえ」…………… 12名 (20%)

以上の結果から、多数の生徒がステップアップミーティングを実施することで、個人やグループの課題が明確になり、課題解決に向けた練習の見直しが図られたものと考えられる。ただ、20%の生徒が「いいえ」と答えており、理由を明らかにするとともに、生徒の実態に即した学習活動の展開や教材提供など支援の工夫が必要なものと考えられる。

ウ 他のグループの課題を確認することにより、自分のグループの課題を意識することができましたか。

「はい」…………… 52名 (88%)

「いいえ」…………… 7名 (12%)

以上の結果から、ほとんどの生徒がグループ間で課題を共有することにより、自分たちの課題を明確にしているものと考えられる。

【他のグループの発表を聞いて感じたこと】

- * 課題が具体的である。 * 練習計画が立案されている。 * 内容がよくまとまっている。
- * 学習ノートの書き方が参考になった。 * 目標が明確になった。
- * 他のグループの頑張っている様子がわかった。
- * 以前より進歩した点について聞いてみたい。 * 皆の意見を聞くことができる。

以上の結果から、多くの生徒が、他のグループの発表した課題や練習計画に対して非常に興味・関心をもっていることがわかる。グループ相互に課題を確認したり、練習の状況を知ったりすることが、自分やグループの課題把握のために、また、学習ノートの書き方や練習方法の計画・立案の参考にしていることがわかる。

個人の課題やグループの課題を共有することが、課題の発見や解決へ効果的に働いているものと考えられる。

【選択制授業における感想】

- * 楽しい。 * 他のクラスとの交流がありよい。
- * 自分たちで計画立案することが楽しい。 * 皆で協力することができる。
- * 自分の課題が考えられる。 * 意欲がわく。 * 自主的に活動できる。
- * 好きな種目ができる。 * 学年全体でやってみたい。

以上の結果から、選択制授業へ楽しく意欲的に取り組んでいる様子がうかがえる。また、相互の協力のもとに自分たちで授業を計画し実施していくことに対し意欲をもっていることがうかがえる。

7 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

生徒一人一人に合った課題を生徒自身が見付け解決するために、学習過程におけるねらいの観点を明確にし、単元の中にオリエンテーションやステップアップミーティングを設け、学習の道筋を生徒に気付かせるとともに、常に課題を確認し、課題解決の方法を検討しながら学習計画の見直しを図れるようにした。また、そこで発見した個人やグループの課題解決の方法を、毎時間のグループミーティングで確認し、学習内容や学習方法を工夫しながら、さらに充実した学習活動が展開できるようにした。

この研究の結果、次のことが明らかになった。

- ア オリエンテーションの際、今までの運動経験を話し合ったことが、種目選択の参考になった。
- イ 毎時間のグループミーティングとステップアップミーティングを関連付けるとともに、お互いの課題の共有化を図ったことにより、個人の課題をより明確に把握させることができた。また、グループ内での課題解決に向けた学習計画の見直しが活発になり、個人やグループの課題解決につながった。
- ウ ステップアップミーティングにおいて、個人やグループの課題の観点を明らかにしたことにより課題把握がしやすくなり、課題解決のための学習活動につながったり、グループ間の連絡・調整が活発に行われたりするなど、意欲的・主体的な学習活動につながった。
- エ ステップアップミーティングを通して課題を共有することで、活発な意見交換が行われグループ内の連帯感が生まれた。また、お互いの課題を理解し合うことで、相互にアドバイスがしやすくなり、意欲的な学習活動につながった。
- オ 学習ノートなどの学習資料をグループミーティングやステップアップミーティングで有効に活用することにより、発想が豊かになり学習計画が充実し、生き生きと活動することができた。
- カ 運動の特性を理解し自ら進んで楽しく学習していくためには、個人やグループの課題を明確にし、フィードバックを行い課題に即して学習計画を見直していくことが効果的であった。

まとめ

- ① 選択制授業においてステップアップミーティングを設けるなど学習過程を工夫することにより、課題把握が容易になり、課題解決に向けた学習活動が展開された。
- ② 学習過程におけるねらいの観点を示すことにより、ねらいがより明確になり、課題の把握と解決に向けた主体的な活動につながった。
- ③ それぞれの場面の課題を活動とのかかわりで示したことにより、課題把握が容易になった。

(2) 今後の課題

- ア 3年間を見通したカリキュラムの在り方を工夫する。
 - ・ 体育理論の位置付けと保健との関連による、学び方を考慮したカリキュラム構成
 - ・ 学校や生徒の実態を考慮した学習指導の視点の明確化と在り方
- イ 中学校からの選択制授業の継続性（めあて学習からの流れの明確化）を明らかにする。
- ウ 学習資料の提供・教師の言葉かけなど、支援の工夫と評価の在り方を工夫する。

[保健]

1 保健の課題学習に関する意識・実態調査

- ・調査期間 平成11年6月～7月
- ・調査対象 都立高等学校保健体育科教諭 357名
- ・調査内容 (1) 課題学習の実施状況・課題学習に対する教師の意識

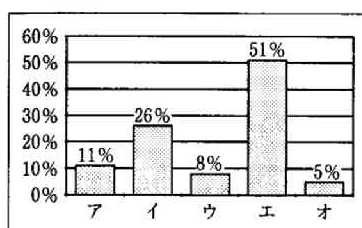
〈調査結果と考察〉

(1) 課題学習の実施状況・課題学習に対する教師の意識

ア 課題学習の実施状況について

- ・課題学習を行ったことがある教師は70%近くおり、個々の教師の意識には課題学習が定着している状況がうかがえる。

イ 課題学習に対する教師の意識について



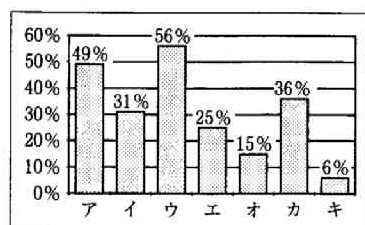
- ア 教師がある課題を提示し、生徒が学習を進める。
- イ 教師が複数の課題を提示し、生徒が選択し学習を進める。
- ウ 教科書の中から、生徒自ら課題を発見し、学習を進める。
- エ 生活の中で、生徒自ら課題を発見し、学習を進める。
- オ その他

- ・課題学習に対して約半数の教師が「生活の中で、生徒自ら課題を発見し、それについて学習する」と回答している。また一方で26%の教師が「複数の課題を提示し、その中から生徒が選択して学習を進める」と答えている。課題学習に対する基本的な考えとしては、生活の中から生徒自ら課題を発見し、学習を進めていくことを重視しているが、実際には、生徒の実態や段階に応じ、様々に工夫している。

(2) 課題の設定状況・課題学習の学習方法・課題学習の学習内容

ア 課題の設定状況について

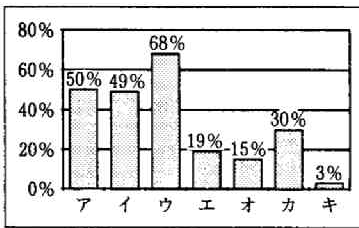
(ア) 生徒はどのようにして課題を発見したか（複数回答）



- ア 教科書の中から課題を発見した。
- イ 教科書以外から課題を発見した。
- ウ 日常生活の中から課題を発見した。
- エ 自分の過去の経験から課題を発見した。
- オ 自分の将来のことから課題を発見した。
- カ 生徒同士の話し合いから課題を発見した。
- キ その他

- ・生徒は様々な手段から課題を発見しているが、自分自身の過去の経験や、将来のことから課題を発見している割合は、それほど高くない傾向がみられる。

(イ) 課題が見付けられない生徒に対する教師の支援（複数回答）



- ア 教師が事例などを示し参考にさせた。
- イ 教科書や文献・資料などを参考にしよう助言した。
- ウ 身近な話題、ニュースなどを参考にしよう助言した。
- エ 授業や体験学習、クラブ活動、生徒会活動などの学校の教育活動で得られた体験を参考にしよう助言した。
- オ 趣味、ボランティア活動など自分の興味関心のある事柄を参考にしよう助言した。
- カ 自分の過去、現在の生活を振り返らせたり、将来を想像させたりする中で発見するように助言した。
- キ その他

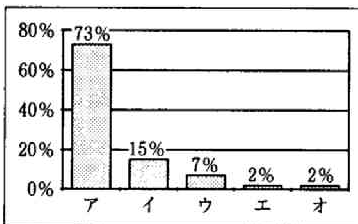
- ・ 課題把握の段階での教師の支援は、事例を示したり、教科書や文献・資料の参考、身近な話題やニュースを参考にさせる場合が多く49%から68%を占める。生徒自身の体験、興味・関心、生育歴や将来像を参考にしよう働きかけるのは15%から30%である。身近で日常生活に直接つながりやすく、扱いやすい内容に重点を置いている実態がうかがえる。

イ 課題学習の学習方法について

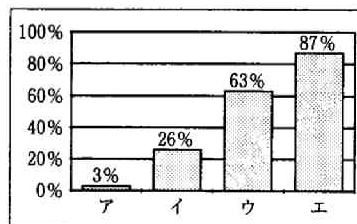
(ア) 課題解決のために生徒が取り組む学習方法と授業で取り入れている学習方法

- ・ 生徒の取り組む学習方法の73%が文献などの資料研究活動である。
- ・ シナリオライティング・ロールプレイングやディベートなどの討議的学習はほとんど授業に取り入れられていない。

生徒が取り組む学習方法



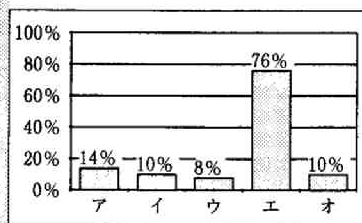
授業で取り入れている学習方法



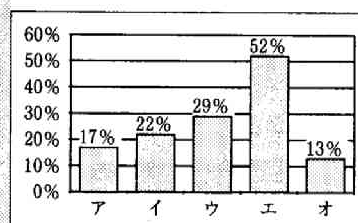
- ア 文献などの資料研究活動
- イ 実験・取材・調査などの実習活動
- ウ 討議的学習（ディベート・ブレインストーミング）
- エ シナリオ・ロールプレイング
- オ その他

(イ) それぞれの学習方法を取り入れない理由

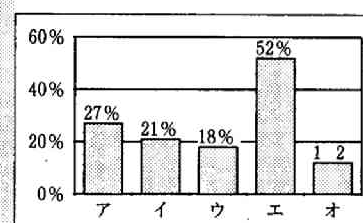
実習活動を取り入れない理由



討議的学習を取り入れない理由



ロールプレイングを取り入れない理由



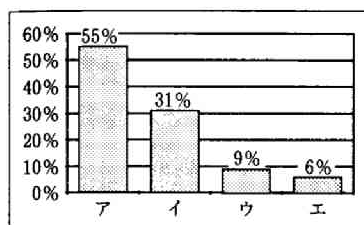
- ア 学習の方法がわからない
- イ 評価の方法がわからない
- ウ 学習効果が期待できない
- エ 時間や手間がかかる
- オ その他

- ・ 実験・取材・調査などの実習活動を取り入れない理由として、時間や準備の負担が大きいとの回答が76%を占めた。安全管理などの面から生徒だけの実施が難しく、授業に積極的に取り入れることに躊躇している状況がうかがえる。
- ・ 討議的学習を取り入れない理由としては、ディベートやブレインストーミングといった学習方法自体を、生徒に理解させるのに多くの時間や労力を要すること、そしてその学習効果が必ずしも課題学習のねらいと直接結びつかないのではないかと考えている傾向がみられる。

- ・シナリオライティングやロールプレイングを取り入れない理由としては、時間や労力を要するに次いで、教師自身が学習方法がわからないという回答も高く、具体的方法が十分に浸透しておらず、教師が多様な学習方法に十分習熟していない実態もうかがえた。

ウ 課題学習の学習内容について

課題学習で生徒が発表したレポートなどの内容



- ア 文献やインターネットなどで得た資料を書き写したまとめが多い。
- イ 文献などの資料をもとにグループで話し、その協議内容などをまとめたものが多い。
- ウ 実験・取材・調査などの実習や体験的活動に裏付けされた結果を出しているものが多い。
- エ その他

- ・生徒が取り組む方法として、文献などの資料研究活動の回答が高かったのに関連して、資料の書き写しやまとめが多かった。文献などの資料を基礎資料として活用するのではなく、そのまま課題学習の結果として提出している実態がみられ、課題学習のねらいや目的が十分達成されていない状況もうかがえる。

2 調査結果のまとめと仮説の設定

課題学習を実施したことがあると回答した教師は68%であり、課題学習が授業の一形態、方法として広く浸透し、定着してきていることがわかる。多くの教師は、課題学習では生活の中で生徒自ら課題を発見し、それについて学習を進めたいと考えている。過去の調査では保健のねらいを、日常生活において健康や安全に留意し実践する力を身につけさせたいと考える教師が多く、資料文献などの活用を重視する考えは19%と低かった。しかし、生徒の課題把握は、教科書やその他の文献から得ることが多く、課題解決の学習方法も文献調査がほとんどで、発表内容も資料からの書き写しが多いのが現状である。また、課題把握の場面での教師の支援も教科書や資料、ニュースを参考にさせるなど一般的・客観的な部分に向けられていることが多い。生徒が生涯を通じ、日常生活において自ら健康を考え実践していくことができる力を養うためには、生徒自身の身近な健康課題に気付かせることと、調査活動で得た知識だけで結果を出すのではなく、多様な考え方に触れることによって、広い視野から課題解決の方法を探り、その過程で様々な解決の方法があることに気付かせることが大切である。また、支援する教師は様々な学習形態や方法に精通し、実生活に密着し、役立つ学習内容の精選と工夫をする必要がある。

以上の調査結果から本研究では、次のような仮説を設定した。

〈仮説〉

生徒が自ら日常生活における健康課題を把握し、課題学習を行うことにより、生涯を通じて健康な生活を実践できる態度や能力を育成することができる。

3 研究の視点

仮説の検証を行うにあたり、日常生活を振りかえることから生徒自ら健康課題を把握し、その解決を目指して課題学習を進めるための学習過程を工夫することとした。その際、課題学習のもつ特性を以下の4点としてとらえ、具体的な方法を検討し、授業を実践した。

課題学習の特性

- ① 興味・関心を生かし、主体的に学習を進めることができる。
- ② 思考力・判断力・意志決定能力を高めるとともに、学習成果を生活に生かしやすい。
- ③ 生徒一人一人の課題によって学習の取り組みに個人差が生じ、課題に対する視点や発想の柔軟性・多様性に気付くとともに、個に応じた学習が展開できる。
- ④ 新たな課題発見による知的欲求の連鎖的向上（スパイラル型学習）と、課題把握や課題解決に対する生涯を通じた態度や能力を育成することができる。

(1) 学習過程の工夫

ア 学習の段階を「課題把握」「課題解決」「まとめ」と大きく3つに分類するが、「課題解決」の段階においても新たな課題を把握するような学習の展開（拡がり）が十分予想される。したがって、3つの段階はP.20とP.21に示されるように複合的・重複的に展開されるものとしてとらえた。また、教師が学習過程をそのようにとらえることにより、生徒の連鎖的（スパイラル）な知的欲求の拡がりや主体的な学習の展開に対して、時機をとらえた的確な支援や評価を行うことができると考えた。

イ オリエンテーションにおいては、単元全体の流れや討議的学習の方法、ねらいを十分に理解させ、目的をもって学習に取り組めるようにした。とくに、ディベートやブレインストーミングなどの討議的学習は、課題学習において課題解決の手段の一つであり、目的ではないことを十分に理解させた。

ウ 「まとめ」の段階においては、新たに把握した課題・未解決な課題・解決不十分な課題なども発表させることで、将来にわたって自ら課題を把握し、解決しようとする態度の育成につなげることをねらった。

(2) 学習形態の工夫

ア P.20とP.21の表に示されるように、学習形態を状況に応じて「一斉」「個人」「任意グループ」「興味グループ」とすることによって、生徒は興味・関心をもち続けながら生活などに即した課題学習を進めていくことができるように工夫した。

イ 「まとめ」の段階で、グループ毎に作成したレポートやクラス全体に発表する場を設けた。そのことにより、他グループ生徒との知識や理解の共有を図ることができた。また、課題解決の方法や過程なども含めて、グループ間で評価させることができるようにした。

ウ 6～8名程度のグループに分けることで、1クラスに約6つのグループを作らせた。これにより、多くの健康課題について討議的学習を取り入れて行うことができた。また、ディベートなどの討議的学習を展開する場合でも、すべてのグループを同時に行わせることにより、課題学習の単元全体に必要な時間数を短縮できるよう工夫した。

(3) 学習方法の工夫

- ア 課題を解決するために、討議的学習を取り入れた。これにより、課題解決に向けた活動を単なる調べ学習に終始するのではなく、生徒自身の生活や興味・関心により密着したものとして行うことができるようにした。このことは、自主的・自発的に調査や研究を進めるための動機づけになると考えた。
- イ 学習の段階を複合的・重複的にとらえたことにより、討議的学習を2回行うことも含めて学習過程を工夫した。課題の解決において不足したことや補充したいこと、また新たに把握した課題の解決に対して再度討議的学習を行うことにより、知識理解の拡大・充実が図れるよう工夫した。
- (ア) 1回目の討議的学習としてディベートを行う。ディベートにより、多様な視点や立場に立った思考・判断・選択・決定などを、生徒が主体的に行うことができる。また、「話す」「聞く」などのコミュニケーション技能、集中力の強化、論理の構成力を高めることができる。
- (イ) ディベートまたはその後の考察によって、課題に対する自分自身のもつ知識を再確認し、自らの意見や考えを整理・統合・深化することによって意志決定能力の向上や行動変容が促される。
- (ウ) 1回目のディベートから得られた結果やその後の考察によって明らかになった課題に応じて、討議的学習も含めて多様な学習方法を選択することから、学習方法を生徒自身が自ら決定し進めることができる。
- ウ 様々な討議的学習方法を理解させることで、課題学習の段階や生徒自身の学習状況に応じて今後の学習方法を生徒自ら選択させることができた。選択された討議的学習方法を状況に応じて工夫することにより、更に意欲的に学習を進めることができるようにした。

(4) 資料の工夫

- ア 生徒の自由な発想・思考・判断・意志決定を最大限に尊重し、課題を解決する能力や態度を養うために、自主的・自発的な学習を促すような資料を工夫した。
- イ 課題を把握する段階では、個々の生徒自身の健康課題を明確化するために、過去や将来をも含めた日常生活を振り返ることのできるワークシートを作成した。
- ウ 課題を把握する段階では、日常生活を振り返ることのできるワークシートにより、健康に対する問題意識を深めさせ、学校生活や地域社会との関連や自分の中から、課題意識をもつことを促した。
- エ ディベートなどの討議的学習を行うにあたっては、進行手順を明示した掲示物を会場に貼って全体の進行を支援したり、時間の区切りを知らせるためにテーブルベルを用いたりするなど、緊張感や臨場感をもたせ、意欲的に取り組めるようにした。

(5) 学習の場の工夫

- ア 課題解決に向けて書籍、資料などを自由に活用できるように授業を図書室で行った。
- イ ディベートやブレインストーミングなどの討議的学習の場は、意欲や関心を高めるために図書室や視聴覚室などに場を設定して行った。

4 課題学習を取り入れた単元指導計画 「日常生活における健康課題」 配当時間 9 時間

(1) 学習のねらい

ア 課題学習を通して、自己の健康に関心をもつとともに、思考力、判断力を育み、意志決定能力を身につける。

(2) 展開

時間	過程		学習の流れ	学習内容
1	課題把握	興味をもつ	* オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・単元全体の流れの理解 ・ダイベート学習の理解 ・個人のワークシート作成 日常生活を振り返り健康課題を把握する 過去・現在・未来を見つめる作業
2		拡げる	* グループ作りと話し合い	<ul style="list-style-type: none"> ・係り分担 ・グループワークシートの作成 ＜グループ作りから学習計画立案まで＞ 興味関心のある事柄を交換する <p style="text-align: center;">▼ 課題を絞り込む ▼ 課題の決定 ▼ 課題との関連性を考え ダイベートのテーマを決定 ▼ 学習計画を立てる</p>
3	解決	興味関心を深める	* 調査研究活動Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> ・課題とダイベートテーマを考慮しながら調査を行う。 ・個人ノートの活用をする。
4			* ダイベート学習の準備	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果を交換する ・肯定側・否定側の決定と役割分担
5 (本時)	新たな課題把握	新たな課題の把握	* ダイベートⅠ	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイベート用ワークシートへの記入 立論、質問事項の検討・準備
6			<ul style="list-style-type: none"> * 結果の考察 * 調査研究活動Ⅱ 	<ul style="list-style-type: none"> ・結果の考察から今後の学習方法を計画 学習方法（解決方法）の選択 ・選択した方法による課題解決に向けた調査研究
7			◆ ダイベートⅡ ◆ プレインストーミング ◆ 調査活動	
8	まとめ		* レポート作成	<ul style="list-style-type: none"> ・学習のまとめ まとめ方、発表方法の工夫
9		* 発表	<ul style="list-style-type: none"> ・評価 (他グループの発表から情報の共有化を図るとともに自己評価による学習活動を振りかえる。) 	

イ 日常生活の中から健康課題を把握し、広い視野から自らの課題を解決していく能力と態度を身につける。

学習形態	教師のかかわり・支援	評 価
一斉・個人	<ul style="list-style-type: none"> ・学習課題の意義について理解させる。 ・ダイバートの紹介と興味をもたせる。 ・自ら課題発見ができるようワークシートを準備する。 	意義・見通しの理解 ワークシートの作成状況
グループ・一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバートを行うことを踏まえ6～8人程度の任意グループを作らせる。 ・グループワークシートを活用させる。 ・日常生活に密着した健康課題についての学習を促す。 ・設定された課題と教科書などとの関連性を示す。 ・ダイバートテーマの設定の仕方について説明する。 ・課題とダイバートテーマとの関連性について支援する。 ・調査内容、調査方法や資料収集の仕方について支援する。 	協力性・協同性 積極性・活発さ 課題設定の適切さ ワークシートの作成状況 適切なダイバートテーマ
グループ・個人	<ul style="list-style-type: none"> ・調査結果のまとめ方について説明する。 ・グループ内の調査結果の共有化が図れるよう指導する。 	調査活動の積極性 内容のまとめ方 個人ノート作成状況 ダイバート準備状況
グループ斉	<ul style="list-style-type: none"> ・ダイバート学習の進め方について確認する。 ・役割分担とダイバート用ワークシートについて確認する。 	役割の遂行状況 理解力・判断力・説得力
グループ・個人	<ul style="list-style-type: none"> ・結果の考察から今後の学習方法をアドバイスする。 ・まとめることを前提とした活動であることを理解させる。 ・ブレインストーミングの方法や目的などについて示す。 	結果の分析 新たな課題把握状況 調査内容のまとめ方 目的に応じた活動
グループ	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的事項を明確にさせる。 ・発表用資料作成上の助言を行う。 	学習成果のまとめ方。
	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な発表方法を指導・助言する。 ・発表内容の共有化を図る。 	発表者の態度・聞く側の姿勢 提出物の状況

5 課題学習の指導事例（実証授業）

「日常生活における健康課題」

- (1) 段階・時間：課題解決の段階（9時間中5時間目）
- (2) 対象：第2学年
- (3) 本時の学習内容：グループで把握した課題について調査・研究した内容を元に各グループに分かれてディベート学習を行う。
- (4) 本時のねらい：各自が調べた内容を元にディベート学習を行うことによって、グループ毎に設定した健康課題についての興味・関心を深めるとともに、知識理解を深め、新たな課題の把握を促す。
- (5) 展開

段階	時間	学習内容・活動	教師のかかわり	評価
はじめ	10分	1 本時の説明 （ディベートの進行方法について） 2 席を移動してグループ毎に分かれる 資料の配布、掲示などの準備 1 遺伝子組み替え食品は是か非か 3 酒、たばこの自動販売機は必要か 5 人工妊娠中絶は是か非か	・ディベートの進行は各班毎で行うことの説明 2 ビルは必要か 4 高校生にバイクは必要か 6 森林伐採は是か非か	・説明が理解できているか ・資料の準備はできているか
なか	30分	ディベート（各班毎で実施・進行） 司会者が論題とディベートの紹介 ディベート開始 立論 1 肯定側立論 1分 2 否定側立論 1分 作戦タイム2分 質問 3 否定側質問 1分 4 肯定側質問 1分 作戦タイム2分 回答 5 肯定側回答 1分 6 否定側回答 1分 自由討論 7 自由討論 3分 作戦タイム2分 結論 8 否定側結論 1分 9 肯定側結論 1分 判定 10 判定 1分	・グループの巡回 進行状況の把握 記録の確認	・自分の役割を遂行しているか ・ルールが守られているか ・活発に意見が出されているか ・積極的に協力しているか ・質問を考えることができるか ・相手側の発表を理解しているか
まとめ	10分	本時のまとめ 結果の報告（判定結果の全体発表） 結果の考察	・要点のまとめと発表への支援	・適切に成果がまとめられているか

- (6) 本時の学習から新たな課題把握に発展した事例（一部のみ掲載）
 - 1 のテーマから「食糧問題（輸入食品）について」「食品添加物と安全性について」
 - 2 のテーマから「エイズについて」「性感染症について」「日本の少子化問題」
 - 6 のテーマから「地球の温暖化について」「ゴミの分別・リサイクルの問題」

6 実証授業の結果と考察

仮説を実証するため、授業後、生徒を対象に「保健の授業に関するアンケート」調査を実施した。その調査結果と考察は以下の通りである。

(アンケート対象：都立高等学校5校 第1・2学年男女 226名)

- (1) 「自分自身の健康課題を把握できた」と回答した生徒は59%であった。課題把握の段階で、ワークシートにより日常生活を振りかえることで自ら健康課題を把握することができ、更にグループ毎に話し合い、それぞれの健康課題の認識の違いを理解したり、興味・関心をもったりして取り組める課題を選定することができたと考えられる。しかし、「把握できなかった」と回答した生徒は13%で日常生活を振りかえることはできたが、そこから問題点や改善点を導き出すことまではできず、健康課題が把握できなかったと考えられる。
- (2) 「課題学習に積極的に取り組むことができた」と回答した生徒は66%であった。生徒が日常生活の中から自らの健康課題を把握し、その課題解決に向けて学習することは、興味・関心が高まり、授業へ取り組む姿勢が積極的になったと考えられる。
- (3) 「ダイベート学習の意味やねらいを把握できた」と回答した生徒は80%であった。大半の生徒がダイベート学習は未経験であったが、生徒が課題解決の方法としてダイベートをよく理解して意欲的に実践できたと考えられる。また、討議も定められた時間とルールを守り、お互い協力しあって活発に行われていた。
- (4) 「ダイベート学習を通して、把握した課題について理解を深めることができた」と回答した生徒は54%であった。グループで選定したテーマについて肯定側と否定側に別れて討議することにより、様々な意見や考え方を認識し、多面的に理解できたと考えられる。しかし、「できなかった」と回答した生徒は18%おり、このような討論になれていなかったり、人前で発言することが苦手なため積極的に取り組めず、課題を理解できなかったと考えられる。
- (5) 「ダイベート学習を通して、新たな疑問や課題を把握できた」と回答した生徒は44%であった。大半のグループがダイベートによって課題を解決することに活動が限られてしまい、疑問点や新たな課題を把握するまでには至らなかったと考えられる。しかし、調査不足を反省点として再度の調査研究に意欲的に取り組み、理解を深めたグループも多かった。
- (6) 「課題学習を通して、把握した課題について自分の意見をまとめることができた」と回答した生徒は54%で、「課題学習を通して、日常生活の中から健康について考えることができた」と回答した生徒は57%であった。逆に「できなかった」と回答した生徒はそれぞれ18%と13%であった。講義形式の一斉授業と比較して、身近な日常生活の中から健康課題を把握し、興味・関心をもって積極的に課題学習に取り組むことは、課題の解決を促進し、健康についての意識を高めることが可能になると考えられる。
- (7) 単元全体を見ると、生徒が日常生活の中から健康について考え課題を把握し、解決する学習を通して、興味・関心をもって健康に関する知識の理解を深める事ができた。また、互いに協力しながら調査研究や討議をすることにより、様々な考え方や意見に触れて課題のとらえ方や理解の違いを認識しながら広い視野から解決することができた。このことにより生徒が生涯を通じて健康な生活を実践できる態度や能力を育成することができたと考えられる。

7 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

調査研究の結果から以下の3点が明らかになった。

- ア 教師は、生徒が生活の中で自ら課題を発見し、それについて学習を進めることで、日常生活において健康や安全に留意しながら実践できる力を身につけさせたいと考えている。
- イ 生徒の課題把握は、教科書やその他の文献から得ることが多く、課題解決の学習方法も文献調査研究がほとんどで、多様な拡がりがなく、発表も資料からの書き写しや要約が多いと考えている。
- ウ 課題把握の段階における生徒に対する支援も教科書や資料、身近なニュースを参考にさせるなど一般的・客観的な部分に向けられていることが多く、生徒自身の興味関心あるいは、日常生活における体験など個人の内面にある課題を引き出すことに向けられることが少ない。

このことから、生徒が生涯を通じ日常生活において自ら健康を考え実践していくことができる力を養うためには、もっと身近な自分自身の健康課題に気付かせることと、調査活動で得た知識のみをまとめるのではなく、多様な考え方に触れさせることによって、広い視野から課題解決の方法を探り、その過程で解決の方法や選択肢が様々であることに気付かせることが大切だと考えた。また、教師は様々な学習形態や方法に精通するとともに、実生活により関連し、生かせる学習内容の精選と工夫をする必要があると考え、研究の仮説を設定した。そして、仮説の実証を行うにあたり、「日常生活で生徒自ら健康課題を把握し、それについて課題学習を進める」ことについて、①学習過程の工夫、②学習形態の工夫、③学習方法の工夫、④資料の工夫、⑤学習の場の工夫の5つの視点から指導計画を立て課題学習を実施した。

その結果、以下のことが明らかになった。

- ア 討議的学習を授業に取り入れることにより、生徒の興味や関心が高まり、自ら健康課題を把握し、課題解決に向けて積極的な取り組みにつながった。
- イ 課題を把握する段階で、ワークシートにより自分自身の日常生活を振り返る機会を設けたことで健康課題の把握を促し、更にグループ毎に話し合う中で他の生徒が把握した課題や新しい考えに触れることで、自分自身の健康課題への理解を一層深めることができた。
- ウ 課題を解決する方法として、教師がディベート等の方法を工夫し、支援することで、生徒が活発な討論を実践することの手助けとなることがわかった。
- エ ディベート学習を行うことにより様々な考え方に触れることができ、課題のとらえ方や理解の違いを認識することで、課題を広い視野から多面的に理解することができた。
- オ 討論的学習を用いた課題学習に積極的に取り組むことによって、思考力や判断力を高め生涯を通じて健康な生活を実践できる態度や能力が身についた。

(2) 今後の課題

- ア 調査・研究活動における外部施設（図書館・公共機関・民間企業）の活用を工夫する。
- イ 課題学習の学習内容と学習指導要領に示された内容の関連性や整合性について検討する。
- ウ 多様な体験的活動（調査・実験・実習等）を取り入れた課題学習の展開を工夫する。
- エ 課題学習における観点別評価及び評定の在り方について検討する。